

第 1 回 日田市審議会

議 事 録

日 時：平成 30 年 7 月 30 日（月）午後 1：30～

場 所：日田市役所 4 階 庁議室

■日 時：平成 30 年 7 月 30 日（月）午後 1：30～

■場 所：日田市役所 4 階 庁議室

■出席委員：15 名中 13 名出席

石橋委員 日隈委員 坂本委員 工藤委員 井上（明）委員 池田委員 篠藤委員
井上（營）委員 上戸委員 海老原委員 大塚委員

■次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 会長あいさつ
4. 議題
 - （1）総合戦略 平成 29 年度分事業評価について
 - （2）その他
5. 閉会

| 発言者 | 主 旨 |
|----------------|---|
| 事務局挨拶 委嘱状交付 | <p>皆様 大変、お疲れさまです。</p> <p>定刻より少し早いですが委員が揃いましたので、只今から、第1回 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を開催いたします。私は地方創生推進課の穴井と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>会議に先立ちまして、事務局の異動がありましたのでましたので紹介させていただきます。企画振興部長の山中、地方創生推進課長の後藤、地方創生推進課の栗野です。よろしくお願いいたします。また、本日は事務局のほか、関係部署からも同席しております。よろしくお願いいたします。</p> <p>配布資料の確認をさせていただきます。事前配布しておりました、資料1 日田市まち・ひと・しごと総合戦略の数値目標・重要業績評価指標（KPI）達成状況（平成29年度分）と、本日追加で配布しております日田市の人口動態、以上でございます。</p> <p>任期途中で交替されました委員のご紹介をさせていただきます。JAおおいの中西部事業部 副統括部長 工藤英明様、日田市自治会連合会 会長 井上營吉様でございます。</p> <p>委嘱状は机の上に置かせていただいております。任期は、前委員の残任期間であります、来年8月までとなります。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日、日田青年会議所理事長 原田宏実様、日田市子ども・子育て会議委員の日野幸子様は、所要のため欠席しております。</p> |
| 会長挨拶 | <p>皆さんこんにちは。先日祇園祭の時に、私の妻、ドイツ人で考古学を専攻しておりますが、一緒に日田を訪れました。非常に良くて感動し、妻も「カーニバルみたいだ」と言っていました。咸宜園と広瀬資料館に行って、改めて広瀬淡窓の偉業を学びました。また、私の妻は発掘をやっていて土器の専門家でもあります、小鹿田に行くときすごく感動し、また来たいと言っていました。私も何度も日田に来ていますが、改めて日田は良いところだと感じました。</p> <p>私と妻はドイツと日本をうろうろしながら、やり取りをしています。妻はドイツで一番古いハイデルベルク大学の准教授をしておりますが、別府の鉄輪の家において、スカイプで講義をしたり、ネット上で学生とやり取りしたりレポートをチェックしたりしています。私も9月の初めにベルリンで、日独の政府が将来をつくろうということ、若手リーダーセミナーというのを東京とベルリンで毎年交互に開催しているのですが、「今回ベルリンで開催するので、交通問題における市民参加について話してほしい」と、ベルリン工科大学の教授をやっている友人に頼まれ、専門ではありませんが講義をする予定としていま</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>す。ただ、今の時代は打ち合わせ等のやり取りはスカイプで行います。僕は今デモクラシーの世界運動をやっておりまして、アイルランドやオーストラリア、コロラド州ではこういうことが起きているなど、情報が全部ネット上で行き来しています。それから共通のホームページを作ろうとあって、東京にいる我々の友人の若い研究者が中に入りながら、運営は全部スカイプで同時に行っています。そういう意味では地理的なものが全く無くなってきている。日田の財産というのもそういう視点からどこかのチャンネルでもって常にチェックする、あるいは再評価するということがないと、自分たちの持っている財産の本当の意味、今日的意味を見失うのではないかとしみじみと思っています。</p> <p>今日はまた、忌憚のない意見交換ができればと思っています。よろしくお願ひします。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございます。それでは、これからの審議の進行は、設置要綱に基づきまして、会長をお願いいたします</p> |
| 会長 | <p>それではまず、事務局から会議成立の報告をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>(日田市まち・ひと・しごと創生 総合戦略審議会 設置要綱第6条第3項) 設置要綱に基づきまして、審議会の成立は、『委員の半数以上の出席』といたしております。</p> <p>本日は、15名中、13名のご出席を頂いておりますので、この要件を満たしておりますことを ご報告いたします。</p> |
| 会長 | <p>今日の議題は1つだけ上がっていて、2番目はその他となっています。1番目の総合戦略 平成29年度の事業評価について、事務局は説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>■資料1 日田市まち・ひと・しごと総合戦略の数値目標・重要業績評価指標 (KPI) 達成状況 (平成29年度分)</p> <p>■追加資料 日田市の人口動態 についての説明</p> |
| 会長 | <p>そうしましたら、まずはKPIの達成状況のところ、4つの基本目標ごとにご質問、ご意見をいただきたいと思ひます。まずは、3ページから9ページまで、基本目標1日田市における安定した雇用を創出するについてご質問、ご意見をいただければと思ひます。いかがでしょうか。</p> <p>聞いていると5ページの企業と人材のマッチング支援や、企業活動を担う人材の確保・育成に関する2つのKPIは、全く振るわないということでしょうか。それから、8ページの創業者への支援についても芳しくない。この2つの領域が非常に芳しくないというのが目立っている。右側にそれぞれの個別の理由が書いてありますが、3年間やってここまで芳しくない、まだ今年の中</p> |

| | |
|--------|---|
| | 間ですが今後の見通しはいかがでしょうか。 |
| 商工労政課長 | <p>商工労政課の中島です。会長がおっしゃるとおり、ジョブカフェおおいた日田サテライト登録者の市内企業への就職者、それから、求職者の資格支援事業の市内就職者数についてはなかなか数字が伸びていないのが現状です。未達成の理由に書いていますが、やはり売り手市場ということで、ジョブカフェおおいたへの登録者が減っているのが一つの要因です。ジョブカフェおおいたに限らず、日田市の地元企業へ就職していただく方を増やす取組は非常に重要だと思っており、この他にも日田玖珠の合同企業説明会や、福岡での、学生や途中で転職を考えている方を対象にした就職フェアなど、新たな試みは行っております。また、高校生や卒業して市外に出る方、市外で就職した後ある程度年数を経て日田市に戻ってきたいと言っている若い方も含め、こういった方たちにいかに今後市内企業の情報や、日田市の情報を発信するかは今後の課題として検討を進めていきたいと思っております。</p> <p>それから、8ページの創業者の関係がなかなか伸びていないというのがございます。昨年5名ということで、かなり厳し状況ではございましたけれども、平成30年度は7月末ですすでに5件の創業という実績が出ているとのことでした。私共としては、年間10件ほどの創業者が出るよう支援をしていきたいと考えています。</p> |
| 会長 | ありがとうございます。どうぞ、基本目標1のところでは何かあればお願いします。 |
| 委員 | 3ページの一番上、新たな雇用の創出のところですが、これは単純に新たに日田で就職した人の数字なのか、それとも辞めて市外に出て行った人等の減った人達を差し引いた数字なのか教えてください。 |
| 事務局 | 3ページの一番上にある新たな雇用の創出数については、このページ以降に各KPIを設定していますが、新規就農者数や、その下にある新規林業就業者数、そして5ページのジョブカフェおおいた日田サテライト登録者の市内企業への就職者数など、新規の雇用を生んだ数の積み上げを掲載しています。ですから、離職や転出については加味したものではありません。 |
| 委員 | そうすると、実際はこれを上回る人が辞めている、ということはないかもしれないが、実際に増えているかどうか分からない。 |
| 事務局 | 実際に辞めた方の調査というのは難しいところもあります。今のこのKPIの目標の数字は、新たに雇用した数字の動きを掴んでいくのを一つの目的として設定しております。 |
| 商工労政課長 | 先ほどビジネスサポートセンター支援事業の創業者数のところで、昨年5人と報告しましたが、日田市で創業支援事業計画というのを各金融機関と商工会議所で作っております。先ほどの数字はビジネスサポートセンターの支 |

| | |
|--------|--|
| | 援事業を使った創業者数であり、商工会議所あるいは市内の金融機関が支援をした分を含めると日田市全体では12人の方が創業しています。 |
| 会長 | <p>ありがとうございます。いかがでしょうか。今、9ページまでの基本目標1についてお伺いしております。</p> <p>そうしましたら、次に10ページから15ページまで基本目標2がございませう。そこについて同じようにご質問・ご意見を伺いたいと思います。</p> |
| 委員 | <p>10ページのふるさと就職の支援のKPIで、UIターンの年間就職者数が達成度合いとしては低いのですが、先週、ある会で日田高校の教頭先生の話聞いたところ、市役所に協力を経て、市役所でどういったことをやっているか授業をしてもらったり、また、市役所職員の研修会に高校生と一緒に参加する経験をさせてもらったりしたと言っていました。その結果、大学を出た後に地元に戻って市役所で働きたいという生徒が4～5名いるとのことでした。戦略では、市外に流出した後、情報発信して戻ってきてもらうという取組が書かれていますが、高校は、自分がどういうふうによの場所でもういった仕事をやっていくのかと決める期間です。しかし、現在の戦略ではふるさと教育の推進と書かれていますが、これはやはり教育委員会ですのよ小・中学校に限られているわけです。日田市内にある高校と連携するということは、今、実際にやっていますが、そこを取り組み、地元就職を増やしていくことが私はもっと必要なのではないかと思ひます。今やっていることにももう少し光を当てて、積極的に取り組むべきだと思ひますので、そこを今後の取組のところに光を当ててはどうかと思ひます。</p> |
| 会長 | いかがでしょうか。答えにくいでしょうか。 |
| 事務局 | <p>これは行政側の直接的な取組ではないかもしれませんが、文科省の事業であったり経済産業省の考え方であったりなど、人を育てるといった意味での考え方がいろいろ言われています。その中で市内では一人、岡野涼子さんという方が高校性たちに、例えばインターネットでモノを販売するような実体験をさせながら子どもたちを育てていこうといった活動をしています。実際に『子どもたちに足りない部分は何か』と言ったときに、やはり実体験を通して子どもたちが得られる共感であるとかそういった意識の部分を、体験を交えながら作り上げ育てていこうという、高校生に対してもそういった民間の動きが出てきています。行政側も将来に向けての子どもを育てるといった意味で、そのあたりを意識しながら取り組んでいくことが重要であると認識しております。</p> |
| 企画振興部長 | <p>今、ご紹介をさせていただきましたが、それ以外でも、3年計画で今年度最終年度でありましたが、約100人近くの日田市の職業についている方の紹介をする冊子を作製しております。市内の中学・高校生に配布し、日田には</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>こんな仕事があるんだよというお知らせをさせていただきました。</p> <p>こうした取組を少しずつ進めることによって、やはり日田に興味を持ってもらう、そしていろんなことを知ってもらうということを進めております。</p> |
| 委員 | <p>今、冊子をお配りしているんですけども、部長が説明したものの成果品です。市内でこうやって活躍している職業人、こういう人がいますよといったもので、子どもたち、特に中学生、高校生に見ていただきたいと思っております。</p> |
| 会長 | <p>私も教育関係ですので、少しだけ。市の行政から言うと、教育委員会というものがありますが、これは小・中学生が対象ですよ。高校は私立を入れて5つ、日田市にはあるかと思います。そして、高校は基本的には県の所管ではないかと思います。日田の場合は、専門学校は若干あるんですけども、高校からあとはほとんどが外に行くという構造があるわけです。従って高校のときに日田で職業を持つとか日田で暮らしていくというのはどういうことなのか高校と連携して教えていくのはどうか、というのが委員の主旨だったかと思うのですが、これは、行政的にはなかなか難しいのではないのでしょうか。いかがでしょう。答えにくいとは思いますが。</p> |
| 企画振興部長 | <p>正直に言って、縦割りに考えると難しいですが、当然ながら市内にある高校ですので、例えば今週企画しているのが、若者の意見ということの中で、各高校にお願いして、要は今日田市の現状なり今後の在り方について、高校生からご意見をいただくといった取組を行う予定です。これも各高校を回って開催の趣旨をご説明する中でご参加いただくとか、先ほどのこちらの冊子についても高校に作製の意図を説明する中でご協力をいただくという形の中で、やはり高校との連携というのは一番必要だと感じております。今会長がおっしゃったとおり、そういった取組というのは少しずつですが連携しながら進めていきたいと思っております。</p> |
| 会長 | <p>一つに、職業はこんなのがありますよと言っても、例えば東京には若い人にとって魅力的な職業はたくさんあるわけです。ところが家賃や通勤時間はどれくらいで、子育てが一緒にできない、子どもの顔は寝た後しか見れない等のデメリットな部分もある。インターネット環境が世界で変わってきているので、東京や日田のそうしたメリットやデメリット等の客観的事実を示すと良いのではないかと思います。</p> <p>それから、付加価値をつけるものが何かということのところ。移住してきた方にクリエイター等がいた場合、クリエイト（創造する）という非常にクリエイティブ（独創的）な仕事が、実はインターネット環境とある種の能力があれば、可能となっている事例もあります。事実としてそうしたイメージを伝えられる機会があまりないのではないかと思います。</p> |

| | |
|---------------|---|
| | <p>だから、学校は閉じた中で教科を勉強して、それから国公立に何名通ったか、私の母校の鶴見丘高校もそうですが、未だにそういうことを言っている。先生方は何時代に生きているんだろうという感じがしています。そして父兄が古いんですね。「昔は何名東大に通ったけど、今は通らなくなった」などの声を聞きますが、時代遅れじゃないかなと思います。インターネットで全部のコンテンツがぶら下がってて、極端なことを言えば、ハーバードの授業でもどこだって受けらる。だから、職業の問題とこのクリエイティブな環境、特に生活面のデメリットというのはしっかりと伝えるべきだと思います。憧れの職業と言っても野球選手になれるスターは3名くらいで、ほとんどが途中ダメになるわけです。ですから、イメージギャップがすごく大きいという事実を高校できちんと社会科学的に伝えたらどうだろうかと思います。そういう内容を高校の先生と話すのは楽しいと思いますが、行政的には難しいと思います。</p> <p>事実そうした教育はものすごく遅れています。私の友人も高校の校長をしていた人がすごく多いのですが、昔は多少クリエイティブでしたが、ずっと学校の先生で校長まで上がっていった人はものの見事に化石化します。社会に出ることがないから。彼らは学校の中だけでずっと生きて、イメージがずっと固定して、ビジネスの動きなんか知らない。だから、少しでもいいので高校の先生とざっくばらんに話をしたらどうかなとつくづく思っています。</p> <p>どうぞ、会長があまり話すとあれですから、2番目のところで今、ご質問・ご意見があったのですが、いかがですか。</p> |
| <p>委員</p> | <p>前に少し戻ってもよいでしょうか。8ページの3つ目のところ、女性若者融資件数とありますが、相談件数はどれくらいあるのでしょうか。また、現状をどう分析しているのでしょうか。取組の中には、『引き続き金融機関、支援機関と連携した創業支援を行う』とあり、具体的には書かれていませんが、市としてどのような具体的な取り組みをしていくのか。融資を受けて、起業をする以上、きちんと形にしたものを目指していると思いますので、そのあたりも含めて、具体的なアドバイス等はできているのでしょうか</p> |
| <p>商工労政課長</p> | <p>女性若者支援の融資金につきましては基本的にはビジネスサポートセンターの支援を受けて、日田市で実施する審査会がございまして、計画書を提出していただくことで取り組んでおります。この制度を使って融資を起業をといた具体的なものはわかりませんが、ビジネスサポートセンターのほうでは、やはり相談にはのるものの内容において資金面であったり、今後の見通しについてきちんとした計画がない場合については、そこでいろんな指導をする中で断念される方もいると聞いております。やはりきちんとした計画を作って起業をしないと、せっかく創業しても廃業になることもあります。</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>その辺についてはビジネスサポートセンターが、創業希望の方とこれが将来に渡って運営していけるようしっかりと相談を受けております。その中でビジネスサポートセンターでも創業を認めるべきではないと判断した件数もあります。そこはきちんとこれからもきめ細かな指導をビジネスサポートセンター、地元の商工会議所、支援機関ともやっていきたいと思っています。</p> |
| 委員 | <p>なかなか行政が入り込むということはできませんので難しいかとは思いますが、何か新しい行政側からのアドバイスや支援はありませんか。行政としてここまではやるべきだという部分は。</p> |
| 観光課長 | <p>観光課の石橋と申します。ビジネスサポートセンター以外の支援で、創業にかかるまでの時間がすごくかかる方もいます。そのため、それぞれの方の要望に応じたスキルをアップさせて創業にまで導いていく必要がございますので、これ以外にも個別の相談だとか、県の協力をいただいてそのテーマにあったセミナー等を開催しております。毎月1回様々なテーマに応じた、経営セミナーであったり、販路開拓のセミナー、ネットビジネスに特化したセミナーを受講者の要望に応じて開催をし、スキルを伸ばしていただいて、その後に経営計画にもっていこうというのがビジネスサポートセンターの取組です。</p> |
| 委員 | <p>15ページの観光客のところですけども、観光客数が減っているかと思えます。今、商工会議所として、先日行われた祇園の集団顔見世が、現在は木曜日に行われていますが、観光客を増やすためにこれを一週間前の週末に開催できないかという取組を行っています。各町内とは話をしているんですが、市役所の観光課としてこれをどのように取り組んでいただけるものかなと思っております。</p> |
| 観光課長 | <p>祇園関係者、それから旅館の関係者からいろんな意見は聞きますが、確かに前の週の週末にすることで、「前週の土曜の宿泊が取れて、翌週も取れる、だから経済効果あるんじゃないか」とおっしゃられる方もいらっしゃいます。それから、祇園の関係者等の一部の中からは、今の集団顔見世は試運転の期間にするセレモニーです。そのセレモニーの時にイベントとして集団顔見世を木曜日にやっております、「木曜日に顔見世をすることでいろんなメディアで取り上げられており週末にお客さんが来るのではないか」と言われる方もいらっしゃいますので、果たしてどちらが良いのかは悩んでいるところがございます。また、今後いろんな方の意見を聞きながら、そのあたりもきちんと調べていきたいと思えます。</p> |
| 委員 | <p>今、我々もいろんな意見をお聞きしていますが、やはり今木曜日だとみなさん仕事があるわけです。若い方の参加が難しいという人がかなり増えてきている。会議所としても今各町内でやっている祇園祭が、今後の少子高齢化</p> |

| | |
|-----------|--|
| | <p>の中で、各町で存続できるのかという問題もある。そうであればまち全体で支える仕組みを作らないといけないのではないかと思います。人の面、それから資金の面も含めて。その辺もぜひ、市役所としても取組をお願いしたいと思います。</p> |
| 観光課長 | <p>祭りの存続についてはおっしゃるとおりだと思います。顔見世についてはあくまでもイベントごとでございしますが、祇園祭というのは地域の伝統行事でございしますので、その存続についてはしっかりとできるように祇園の関係者と、それ以外の観光関係者も含めて様々な協議の場を持っていきたいと思っております。</p> |
| 会長 | <p>そうしましたら、16ページから基本目標の3、それから4も続けて終わりまでご意見ご質問いただければと思います。</p> |
| 委員 | <p>16ページの婚活イベントの回数ですが、これでカップルがうまれたという数字は把握しているのでしょうか。</p> |
| ひた暮らし推進室長 | <p>イベントの回数は、民間の方が取り組んでくれているイベントを載せております。その方たちからの報告では、カップルの成立まで分かるところもありますが、成婚率まではわかりません。</p> |
| 委員 | <p>21ページの防災士のことが書いてあります。非常に災害が多いし、防災士など意識を持った方をどんどん養成していただくのは非常に良いことだとは思いますが、しかし、防災士になったのはいいが事後研修等がない。実は私も防災士です。平成27年度に県庁の講習を受けてなったのですが、なったのはいいけれどもその後何もない。例えば防災士同士の集まりがあって講習を受けるなど、せっかく目標設定してどんどん防災士を増やしているのので、防災士になってもらった人たちのケアと言っておかしいですけど、何かあると良いと思います。</p> <p>この前から、大鶴地区で防災士が大鶴地区に何人いるかを調べていましたが、その中に実は私は入っていませんでした。おそらくこの数字は、市が主催した講習を受けて防災士になった人の数だと思います。他で受講して防災士になった人も日田市内にいるのではないかと思うので、調べるのが簡単かどうかはわかりませんが、そういう方も含めてた上で、何か後の取組があると良いのではないかなと思います。</p> |
| 地方創生推進課長 | <p>防災士については毎年フォローアップ研修ということで案内を出して研修は行っているところがございます。把握できている、できていない、ということで、委員に連絡がいないという可能性があります。</p> |
| 委員 | <p>防災士の市内の組織化が大事だということで、今年度、皆様方を集めて、組織化のためにまず全体の研修会をしようという計画になっています。具体的な日程はまだ決まっておりません。防災士の活用については、委員のおっ</p> |

| | |
|-----------|--|
| | <p>しゃるとおりやっっていかなければなりません。今、出前懇談会で各地区を回っていますけれども、そのテーマを防災・減災対策としており、防災士に皆さんもなっていただきたいという話と合わせて、地域ごとで防災士をいかに活用するかということもぜひ考えていただきたいというお願いをしています。市民の皆さんに自発的なものはもちろんですが、市としてはまず組織化をして、その中で防災士に活躍していただくような場づくりを考えていこうと思っています。今年度からですが、そうした取り組みを始めています。</p> |
| 委員 | <p>私の地区では、広範囲な市内ではなく、大鶴地区だけ、来年度防災士協議会というのを振興協議会の下部組織として作るようにしています。そこに予算をつけて。そうしないとばらばらの活動では良いものが出ませんので。そしてその代表が市にきていろいろ協議する形にすればより充実するのではないかと思います。</p> |
| 委員 | <p>フォローアップ研修は今までやった中で出席率はどうでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>出席率は今手元に資料がございませんので把握しておりません。</p> |
| 委員 | <p>防災士それぞれの意識が違って、極端な話、自治会長に言われたので防災士なったなども正直あると思います。だから、せっかくなった人が少しでも参加する率を高くして続いていくように、ぜひ把握していない部分も把握し、私も含め案内をいただきたいと思います。</p> |
| 会長 | <p>よろしくお願ひします。今、4番目の最後のところまで進んできていますが、ここで、全部含めてでも結構です。あるいは、最後のほうに人口動態について説明がありましたが、その部分も含めて、最終的にご意見、ご質問いただければと思います。よろしくお願ひします。</p> |
| 委員 | <p>P12に移住支援制度を活用した移住者数が今年度27人、11ページに移住奨励金制度を活用した移住者数が543人、10ページに社会増減の説明で、25～29歳の移住者の人が多かったといった表現がありますが、結局何人の方が移住してきたのかがもしわかれば教えてほしい。また、この制度の違いも併せて教えてもらえるとありがたいです。</p> |
| ひた暮らし推進室長 | <p>まずは、移住者の定義からいきたいと思います。日田市では移住者の定義を、「定住の意思を持って入ってきた」というのがまず第1となります。また、「転入日より前5年間は日田市に住んでいなかった人」そして「転入日から定住の目的で入ってきた人は、今後5年以上は日田に住むこと」を条件としております。</p> <p>まず、11ページの一番下の『移住奨励金制度』は、Uターン世帯、若者39歳以下のいる世帯に対して、今言った条件を満たした場合に、一人の場合が</p> |

| | |
|-------------------|--|
| | <p>5万円、それ以上の場合が10万円の移住奨励金を渡しております。その移住奨励金を受けた人をカウントした数字が、28年度が189人、29年度が543人という数字です。</p> <p>次のページの『ひた暮らし支援制度』、こちらは空き家バンクを使って市外から日田市に来た場合に、改修費用や仲介手数料、引っ越し費用等を補助する事業です。これはあくまでも日田市にある空き家バンクに登録した家に市外の方が入ってきた場合に出す補助金です。先ほどご説明した移住者の定義は同じとなっています。こちらでカウントした数字は28年度が15人、29年度が27人となっています。</p> <p>移住者数というのは、当然、移住支援策を活用した、何らかのアクションを起こさないとカウントすることはできません。移住支援策を活用した移住者数は、今説明した『移住奨励金事業』や『ひた暮らし支援事業』の他に、『結婚新生活応援事業』、『木づかい促進事業』、『農業親元就農給付金』や『農業次世代人材投資』など、いろんなU・Iターンに結びつく支援事業をやっておりまして、そこから挙がってきた数字です。全体的な移住者とすれば28年度は222人、29年度は569人です。ただ、ここに挙がっているKPIは、先ほどご説明したとおり、ひた暮らし支援事業と日田市移住奨励金事業を使った方の数字としておりますので、内数が挙がっているといった形となっております。</p> |
| <p>委員</p> | <p>それで今、569人くらいという数字ですが、社会増減の25歳から29歳の転入超過の理由に、「移住施策の効果が出てきている」とはっきりと書いてある。この今の数字の569人という数字をもとに、転入超過、移住施策の効果と言っていると解釈してもよいでしょうか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>先ほどの資料2、A3の用紙についてですが、実際に何が要因でその数字が上がっているのか、というのはわからないんですけども、統計上5歳刻みで出した時にこの年代の数字が上がっている。それを具体的に平成27年、28年、29年で要因を考えた時に、移住奨励金の活用者数が増えているので、そういった部分も考えられるのではないかと推察できるので記載しましたが、断定はできません。</p> |
| <p>委員</p> | <p>わかりました。その部分を確認したかったのです。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>追加で今年度の移住定住ガイドもお配りしております。先ほどの、移住奨励金支援制度と空き家バンクの関連の支援も載っております。ご確認ください。そのほか、ファーマーズスクールや農業大学校の支援等も掲載しており、これらの移住関連事業を活用して移住された方が、先ほどご説明したとおり全体で569名となります。</p> |

| | |
|---------------|---|
| <p>委員</p> | <p>今年が平成30年ですから、27年から始まって、27年の場合は事業的には後半から多少前倒し的なものはありましたけれども、今年で4年目。来年度は仕上げというわけではありませんけれども、地方創生の最後となります。実績が何パーセントという、100%達成したもの、90%達成しているものと出ていますが、再来年度から次の創生の事業が始まる場所があるので、今年度は、今までの実績を考えた中で、他市と比較したときに、何が足りなかったのか、成果を上げるために何が必要なのかということも分析しなければなりません。同時に、次の、第2次というのかどうかはわかりませんが、そういうことにも取り掛からなければならないというのは十分推測できるわけで、国も次の展開のことが出てくるでしょう。それは、国から出てくる前に、そこを分析などの作業をしながら、展開を考えていかなければならないという状況があると思います。</p> <p>先ほど質問にありましたように、社会増減が日田市の場合はマイナス334名、これは平成28年の10月1日から29年の9月末の1年間の数字ということですよ。この数字が手元にあるんですけども、大分が238、豊後高田が71、日出が75、中津が37、これは社会増減だけのプラスの数字が出ている。日田市の場合はマイナス334名ということが出ていますけれども、この中でやはり豊後高田の71名のプラスというのは、自治体としての規模などを見た時にものすごく頑張っているなと誰が見ても取れると思います。では、そこらあたり何が違うのか。一般的には昭和の町という形の中でPRをしてきていますが、そういった中で行政としてはどういった手立ての中で、こういった状況、人気のあるまちとして育て上げているのかなどを分析する必要があります。たまたま今社会増減の数字が出ており、話しやすいので出していますが、他の施策についても、そういった検討が、数字を追うだけではなくて、「では何故これがこういった実績なのか」という分析が、各部署で行われているのかというのが気になります。それを定着させるためには何が必要なのか、来年度が最後の年になるので、そこでまたプラスアルファ、次の戦略が始まるのであれば、そういったところが重要となってくると思います。部長がいいのでしょうか。ここらあたりをどう考えていますか。</p> |
| <p>企画振興部長</p> | <p>ご紹介いただいたとおり、総合戦略は29年度が第1期計画の中間年であり、また、来年度が最後の年です。また、国は31年度でいったん終わるまち・ひと・しごと創生総合戦略を32年度以降もつくるというのを国の基本方針で発表しています。ただ、具体的な内容についてはまだ周知はされていないので、今後、来年に向けて国がどう取り組み、それに対して地方はどう取り組んでほしいといった話が出てくるかと思います。</p> <p>今回のまち・ひと・しごとの総合戦略は、当初から、積極戦略と調整戦略</p> |

| | |
|-----------|--|
| | <p>という言葉で表していました。積極戦略というのは、人口減をどう歯止めをかけるかということで、基本目標の1～3の項目になります。国の思いとしては、人の奪い合いに各自治体が参加して、少しでも移住者や雇用者を増やせ、人員を増やせとしており、そういう意味合いでは積極戦略となっています。調整戦略というのは、人口が減少しても、その自治体が今後も継続するようにと持続可能なまちづくりという意味合いの主旨ですが、こちらのほうが基本目標の4番目がそういった趣旨で作られています。そうした中で、先ほどご質問がありましたとおり、KPIの達成具合を見ると、幾分は改善しているというのがはっきり言えると思っております。ただ、29年の九州北部豪雨に伴う風評被害等いろんな分野での経済的な打撃等もあったというのも事実でございます。そういった中で伸び悩んだというのもKPIの中にはいくつか見受けられます。</p> <p>また、先ほど例に上がりました豊後高田との比較ですが、やはり、日田市との大きな違いは中津市のダイハツ進出で、豊後高田市はこれの関連産業がかなり多くあります。そこに若い人の雇用が増えてきていると考えられます。雇用が増えることによって、中津市の場合は県内トップの出生数で、合計特殊出生率も県内14市の中でトップとなっています。そういったところにもいろいろな影響が出ています。ただ、これがそのままダイハツを日田に持って来れば良いではないか、という話にも当然なりませんので、やはり日田市のこの地域、地形を見渡しながらそれに合う産業を創出することが重要だと考えています。そして、先ほど話に出ておりました高校とうまく連携しながら、少しでも転出に歯止めをかけながら転入をいかに増やしていくのが、今後、次期計画に向けての大きな課題になろうかと思っております。ひとつひとつの分析等は今後もやっていきますが、今の時点の大きな意味合いでの中間年の評価ということでご理解いただきたいと思っております。</p> |
| <p>会長</p> | <p>ありがとうございます。ちょうど今が4年目の真ん中であり、もう来年度が最終年度というご発言、それから、その次の計画を考えた場合に、この設定したKPIの進捗業況をチェックするだけではなくて、ある意味では方向転換とか、新しい切込みのプランニングなどを考え始める、あるいは考えていかなければならない時期ではないかというご発言だったかと思えます。また、それについての部長のお話がありました。これは、今日この審議会がありますけれども、並行しながら話し合っていくことだろうと思っております。</p> <p>他に何か、全般を含めてありますでしょうか。</p> |
| <p>委員</p> | <p>資料2の2枚目に転入・転出の推移がありますが、先ほどお話があったように25歳～29歳が29年度、転入・転出の差で66プラスとなっている。これは前</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>年度、前々年度に比べてこの年代が特徴的に増えている。もう一つは0歳～4歳も26人プラスとなっているので、20代後半の子育て世代の方が移ってこられたのではないかと想像できるのですが、それはあくまでも想像です。ここはプラス面が出ていると思われま。先ほど少し分析的にこういった要因で増えているのか、移住の支援を作ったのでそういった効果も想像されるといった話もされてい。転入の部分は市民課で分かると思うので、アンケートを取って、こういったところで日田市に戻ったのか特徴的なものを調べて、そこにプラスの効果が表れているのだとしたらその部分をさらに高めていくなど、希望にこたえるような中身へ変更するもしくはそれが情報として多くの人に渡るような発信をするなど、今プラス面が出ている部分进行分析して、ここを強める必要があるのではないかなと思うのですが。</p> |
| 企画振興部長 | <p>今、委員さんがおっしゃられたのと同じような感想は持っております。移住に関しては、先ほど移住の定義を話させていただきましたが、その方が移住者であればアンケート調査をしておりますが、一般的な、要は転勤に伴う引っ越しなど移住の定義に入らない方についてはアンケート調査をいたしません。実際は、何のために、何があったから日田に戻ってきたのか、それが仕事なのか、子育て環境なのかなど、いろんな要件があるかと思。今、アンケート調査等でその把握をといったご提案をいただきましたので、どこまでご協力いただけるのかが重要になってくるかとは思いますが、関係課に相談して検討したいと思。</p> |
| 会長 | <p>そこのプラスの面についてももう少し深い、更なる調査というかご検討をお願いできればと思。他にありますでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>日本全体の人口が減っていく中で、定住人口を増やすのは非常に難しい課題だと思。もちろん、やらなければならないことだとも思いますが、各市町村が取り合いみたいになっている中で困難な課題だと思。もう一つ交流人口というものがある。こちらについては政府も、2020年に4,000万人増やすと言っています。去年が2,900万人で、さらに1,000万人以上増えるということです。やはり増えるところの政策をとったほうが、成果が上げやすいと思うので、交流人口をどう取り込むかというところにも少し重点を置いてやっていただくのが良いかなと思。</p> |
| 観光課長 | <p>交流人口では、今、国内よりも海外からの観光客の伸びが大きいのが現状です。観光課といたしましても、海外向けの戦略を少し重点的に行ってまいりたいと考えてお。一昨年くらいから取り組み始めたのは、まずはお越しいただいた方に日田でいろんな情報に触れていただくことができるようにWi-Fiの整備と多言語化の案内版の表示をしております。今年度からそれ</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>以外に海外の方はウェブを活用しての情報収集が多いと聞いておりますので、多言語でのウェブでの情報発信にも力を入れていきたいと思っております。</p> |
| 委員 | <p>買い物をするときに今、豆田地区はほとんどが現金でないという状況があります。今ほとんどがキャッシュレスという形になってきていますので、海外から来た方は現金を持っていない。それなのに町の人たちは海外の方がモノを買わないと言っている。決済手段をもう少し何とかできると良いと思います。</p> |
| 委員 | <p>キャッシュレス化については、市単独でシステムの広い話をするのが、市でできることがあれば考えていきたいと思っております。</p> <p>もう1点、日本人に喜んでもらえる場所でなければ、やがては外国人も来なくなるのではないかという危惧も持っていますので、やはり観光地としての魅力づくりは基本的なところもないがしるにせずにやっていく必要があると思っております。</p> |
| 会長 | <p>いかがでしょうか。だんだん時間も、予定されている時間が来ておりますけれども。何か最後にございましたら。</p> |
| 委員 | <p>総合戦略は、まち・ひと・しごとの創生だが、今からの仕事というか現業においては、どうしても外国人労働者を把握しないと避けて通れないようになっていきます。現状、私たちの取引先でも、福祉関係でベトナムに面談に行き採用しようかと決まりかけたら、大阪の会社が支度金を出して、だめになったといった事態が起きています。今までは何とか外国人労働者が入ってきていたのが、給与の高いところに逃げている状況が出てきています。こちらについても、市としてその数字を把握しているのかということと、今後何か対策を、応援支援事業とかが考えられるのかお聞きしたい。</p> |
| 商工労政課長 | <p>外国人労働者については、委員がおっしゃるとおり、昨年、雇用労働の実態調査を実施したところ、7割弱の企業が人手不足との回答がありました。しかも、以前はハローワークに求人を出せばすぐに人が来ていたけれども、そういったことも今は無いと。そのような中で、今後はやはり外国人労働者の活用も考えないといけないと思っております。今実態調査として、日田市工業連合会に加盟している約200社を対象に、外国人、高齢者、女性、障がい者も含めて、企業の実態と今後の活用に関する企業の考えについて、アンケート調査を実施しています。外国人労働者を活用する企業の、こういった支援があればというのを含めて調査を行っております。8月9日を期限として回収をしておりますので、この調査内容を検討して、また来年以降、市として何か事業を検討できればと考えているところです。</p> |
| 委員 | <p>私も女性と移住者という立場からお話しさせていただきます。先ほど子育て</p> |

| | |
|-------------------|---|
| | <p>ての話がありました。私がもともと移住するきっかけとなったのが、友達が日田でたまたま転勤の都合で子育て世代で暮らしていて、日田がとても良いと、子育てするのにすごく良い環境だと言われて、遊びに来たのが最初でした。また、私がゲストハウスに定宿で泊まっていたんですけど、そういう温かいつながりの中で、日田の良いところにたくさん出会ってファンになったという経緯があります。子育てについては、子どもたちが挨拶をしてくれるなど、そうしたコミュニティの良さというのも彼女はすごく感じていたみたいでしたし、そのあとも日田に住みたいと言っていたんですけど、転勤してしまったということをお伝えしておこうと思いました。</p> <p>私はそうした個人的なつながりの中でも、日田の魅力をたくさん見つけて入ってきて、日田が大好きなんですけど、どうやら、日田にパッと降り立った観光客の方はそういうイメージや情報を掴みにくかったりするのかなと感じました。例えば、駅に降り立った時とか、バスセンターに降りた時に、日田の魅力にちゃんと繋がれる工夫や見える化がもう少しできると、日田の良さにダイレクトに繋がれると思うことがありまして、その辺りは公共の面からお金のかからないところで、アクセスのしやすさ等、繋がれる工夫をぜひしていただければありがたいなと感じています。</p> <p>あと、移住に関してもやはり、子育て世代などの家族で移住する率が高いのではないかと思います。私も今付き合っている方、移住の方が多いですけど、体感としてそれがありますので、やはり家族とか、子育て世代をターゲットにして、日田の良さとか子供をめぐるコミュニティの温かさというものを、制度も含めて通じていくようなPRができると、そのまま定住して実際の活動人口になるのではないかと思いますので、取り組んでいただければと思います。</p> |
| <p>会長</p> | <p>ありがとうございます。そういう声が、どんどん見える化していくと良いですね。他はよろしゅうございますか。そうしましたら、議案1についてはこれで終わりたいと思います。議案の2はその他ということですが、事務局は何かございますか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>今後のスケジュールについて少しお話させていただきます。今年の10月から12月の間になるかと思いますが、毎年、審議会に諮らせていただいております内容として、国の交付金の評価・検証作業がございます。そして来年の2月から3月にかけて、31年度の総合戦略、アクションプランに向けた見直しの作業についてお話ししたいと思っております。すでにお話の中で出ましたけれども、国の次期総合戦略の話も出ております。今年の6月に閣議決定された内容について、総合戦略の方針も出されておりますので、新たに5年間の計画策定を国のほうから示されている状況でございます。タイミングを見て、</p> |

| | |
|--------|--|
| | また、新たな計画についても議論もしていただければと思っております。事務局からは以上でございます。 |
| 会長 | ありがとうございます。それでは、その他も終わりましたので、よろしゅうございますか。そうしましては議題についてはこれで終了したということで事務局にお返しします。 |
| 事務局 | ありがとうございます。それでは閉会の言葉を企画振興部長の山中が申し上げます。 |
| 企画振興部長 | 本日はお忙しい中、貴重なご意見をありがとうございました。先ほどお話をさせていただきましたが、29年度はちょうど半分が過ぎて来年度は最後の追い込みということ、そして、国からは第2期、次の5年間という基本的な方向も出ております。いずれにしても日田に住んでもらいたい、住んだ方が安心して暮らせるといった持続可能なまちづくりも含めて、今後も進めてまいりたいと思います。今後ともいろんな意味でご意見賜る中で、よりよい計画、よりよい実行に移していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。 |